



今年活動 20 周年を迎える、NPO 法人 光の子どもたちの会 代表の鈴木真由美さん、本を出版「ブラジル 天使が舞い降りる村」

横浜市に事務所をおき、ブラジル（東北部の小さな漁村）で幼児教育を基盤として、教育を通じた活動を行っている「NPO 法人 光の子どもたちの会」の代表をしている、鈴木真由美（横浜市出身、保育士）が、この度「ブラジル 天使が舞い降りる村」という本を、2020 年 8 月 20 日付で出版することとなりました。

「NPO 法人 光の子どもたちの会」の代表である鈴木真由美は、2000 年にブラジル東北部の貧しい漁村で地域住民と共同で保育園を設立しました。隣接する観光地の急激な発展に伴う治安の悪化、そして青少年の売春や麻薬の売買などの問題が深刻化する中、子育てに不安を抱いている親達の「子どもたちには豊かな将来を送ってほしい」という強い希望を受け、保育園を基盤とした活動を続けてきました。その後、教育を基盤とした現地での活動を支援する目的で 2006 年 7 月に「光の子どもたちの会」を設立し、2015 年 8 月に NPO 法人となりました。

この度、「ブラジル 天使が舞い降りる村」と題して、本を出版することとなりました。2000 年にブラジル国セアラ州アラカチ市カノア・ケブラーダ地区エステーヴァン村でカノア保育園を創設し、その後も支援を続け、2020 年の今年、20 周年を迎えました。そんな記念でもある 2020 年に、ブラジルでの活動や保育士としての学び、2 つの国での子育て経験を 1 冊の本として、まとめました。



ブラジル北東部、世界的観光地のカノア・ケブラーダに隣接する貧しい漁村エステーヴァン村。麻薬と売春の渦巻く環境の中で暮らす子どもたち。親たちから託された願い。それは「村に保育園を作る」ことだった。

「子どもたちに、これからの社会で生きていけるだけの力を」



エヴァさんと子どもたち



サンパウロのファベラ（スラム街）の保育園を経てエステーヴァン村にやってきた著者。親たちの願いを受け村人たちと共に保育園作りに奮闘し、村が「未来に夢を持てるようになった」と言えるまでの道のり 20 年を、子どもたちのエピソードとフルカラー写真で鮮やかに描く。



鈴木 真由美（すずき まゆみ）

1977 年神奈川県横浜市生まれ。保育士、ブラジル・カノア保育園 園長。2000 年にブラジル北東部の小さな漁村エステーヴァン村にカノア保育園を作り、運営を始める。2006 年にカノアでの支援を目的とした「光の子どもたちの会」を設立（2015 年に NPO 法人化）、代表となる。子どもの権利条約の委員としても、現地の地域力向上を目指して活動中。ブラジルと日本を行き来しながら生活している。2 児の母。

本リリースに関するお問い合わせ

「NPO 法人 光の子どもたちの会」 代表 鈴木真由美

TEL/FAX 045-321-1824

横浜市神奈川区松本町 1-7-1

E-mail: info@criancasdeluz.org URL: <http://criancasdeluz.org>